

奥野製薬工業株式会社

付加価値のある素材を ニーズに応じて開発

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可
小ロット
- 量産対応



色のバリエーションなどニーズに応じて開発

業務内容

表面処理・無機材料・食品の3本柱

めっきなどの表面処理薬品・ガラス粉末などの無機材料・品質改良剤や消臭剤などの食品の3事業を展開することであり、マン・シヨックなどの経済危機も乗り越って来た。浮き沈みのある表面処理分野を他分野でカバーする。



自動車部品などの表面処理を手がける

強み

研究開発力で顧客の要望に応える

約400名の社員のうち、3分の1にあたる約140名が研究・開発部門に所属。研究開発に力を入れる同社の姿勢がうかがえる。また奥野和義社長は「顧客に対しては『イエス』と答えることから入れ、要望には絶対に『ノー』と言うな、ということを全社員に徹底している」とし、研究開発型企業としての方針を貫く。大企業が手がけないニッチな分野に特化し、顧客の信頼を獲得している。また、環境負荷の少ない製品の開発を追求している。

海外展開

アジアと北米に表面処理薬品を供給

平成24年から25年にかけて表面処

今後の展望

食品分野強化で一層の安定を目指す

理薬品の海外基盤の強化を加速した。中国では上海市の営業拠点を現地法人に格上げするとともに、技術拠点として昆山市と中山市の2カ所を実験室を設けて試作や分析などを始めた。東南アジアでは営業・技術支援力を高めるためタイに現地法人を設立。タイと周辺諸国の売り上げ拡大を図る。顧客である日系企業のグローバル化に対応した形だ。一方、現地企業の開拓も進める。韓国では高付加価値表面処理薬の現地製造を始め、現地企業のニーズの高まりにこたえる。米国でも自動車関連メーカーなどの国内回帰に着目して表面処理薬品の営業活動を始めた。

3本柱を打ち出しているが、現在は表面処理薬品の売り上げが65%を占める。「安定性を考えると、表面処理薬品が5割、無機材料と食品の合計が5割の売上比率が理想だ」と奥野社長は考える。無機材料は機能性を付加した透明薄膜で差別化を図る。さらに浮き沈みの少ない食品分野の強化を重要ポイントとしている。消費者の健康志向を受け、天然素材からの抽出物で機能性のある製品に食品事業の柱をシフトしていく方針。その中で期待がかかるのが焙煎米糠抽出物。口臭除去タブレットによる消臭効果浸透を図っているが、アンチエイジング、肝機能向上などへの応用が考えられる。また、小麦由来の改質グルテンも、保水性の高さを生かした食感改良材としてアピールを強めている。

COMPANY PROFILE

奥野製薬工業株式会社

大阪25

ISO 9001
ISO 14001

当社の歴史

明治38年に奥野藤商店として工業用薬品販売を開始。大正15年から工業製品の製造販売に着手した。昭和19年に奥野製薬工業株式会社と改組、昭和24年に油性研磨剤、昭和33年にめっき用光沢剤と関連製品の製造販売を始め、業務を拡大。アジアや米国にも進出し、グローバル化を進めています。

Think ECO
「環境、創造力、独創性」あすの地球を考える

代表取締役社長 奥野 和義さん



■主な事業内容

電子部品用各種処理薬品、金属・プラスチック用の表面処理薬品、アルミニウム・アルミニウム合金の表面処理薬品、無電解めっき液、電子部品用低融点ガラスフリットペースト、焼き付け用ガラス絵の具、食品添加物・食品品質改良剤、食品工業用各種サニタリー製品の製造・販売

■主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー、家電部品メーカー、化学系商社

住所 / 〒541-0045
大阪市中央区
道修町4-7-10
TEL / 06-6203-0721
FAX / 06-6203-4332
創業 / 明治38年
設立 / 昭和19年10月
資本金 / 7,000万円
従業員 / 422名

<http://www.okuno.co.jp>